校内別室を利用した不登校の未然防止について

不登校生徒の状況

対象生徒は、今年度入学した中学１年生である。小学校在籍時から学校に行く意味を感じておらず、授業中の抜け出しや欠席が続いていた。中学校入学当初は安定して登校ができていたものの、９月中旬から休みがちになっている。保護者は本人の気持ちを優先し、登校できない状態が続いている。

具体的な取組

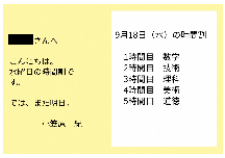
○魅力ある学校・学級づくり

本校では複数担任制をとり、１学級に複数の担任を配置している。さらに、１学年では担任のローテーションも行い、１週間ごとに担任の教員が入れ替わる取組も行っている。これにより、多様な生徒に対応し、相談しやすい教員に相談できる環境をつくっている。

○デジタル機器を利用した支援

授業支援アプリケーションを活用し、日々の連絡事項や時間割を共有している。

また、ＡＩ型デジタルドリルを活用し、登校できない期間でも教科の学習ができるようにしている。



○別室対応による支援

２週に１回程度のＳＣ面談を行っている。前期中間考査は本人の意向を踏まえ、別室で実施できるようにした。また、保護者もＳＣと定期的に面談している。

学校との関係を維持し、相談の場を提供することができている。

○加配教員措置終了後の組織体制継続

週に１回の特別支援・教育相談委員会にて、今後の展望や保護者への働きかけなど、担当教員間で共有していく。

また、ケース会議を開き、小学校のＳＣや関係機関とも連携し、当該生徒及び家庭の支援も含めた多層的な支援を図っていく。

成果

週に数回の放課後登校ができている。複数担任制度や関係機関と連携したケース会議を活用し、当該生徒と保護者双方に相談・支援の場を提供することで、当該生徒及び保護者の心理的な安定を図ることができている。

課題

関係機関との連携を一層強化し、校内別室の利用や授業時間内での登校等につなげていく。

学校外の支援機関と連携した対応について

不登校生徒の状況

対象生徒は中学校３年生であり、小学校高学年から不登校が継続している。
ＳＳＷや家庭と子供の支援員が定期的に家庭訪問をして支援している。２年生から区内の教育支援センターに通所していて、学校への登校は三者面談や通知表の受け取りなどであった。

具体的な取組

○定期的な家庭訪問
昨年度から週１、２回家庭と子供の支援員が家庭訪問を行うようになった。
訪問時には当該生徒から １ 週間の様子などを直接聞くことができている。
また、宿題や提出が必要な書類等の受け渡しを毎回行っている。

○復帰に向けた計画的な支援】
支援者で協議し、３年生からの登校の計画を立てた。その結果、３年生の４月から １ か月間、校内別室に休まず登校し、年度初めの証明写真の撮影や身体計測、内科検診等を受けることができた。その後、教育支援センターへの通所につながった。

○段階を踏んだ登校の促し
支援員や担任との信頼関係を築いた結果、２年生の後期に入り２か月に１日程度学校正門まで書類を取りに来られるようになった。
登校できたことが生徒の自信につながった。また、担任から学校の様子や行事について説明を受け、さらに登校意欲が高まった。

○学習を通じた自己肯定感の向上
教育支援センターへの通所と併用して校内別室への週２回の登校が定着した。
美術や書写、道徳、総合的な学習など学年と同じ課題に取り組むことができた。特に、美術ではグループでの課題制作に挑戦し、完成させた。
文化祭では多くの作品を出品することができ、自信につながった。

成果

支援の結果、３年生５月から教育支援センターへの週３日通所、学校への週２日登校が定着し、給食を教室まで取りに行ける日も増えた。
中間、期末テストを別室で受検するなど、高等学校進学に向けて安定して登校できている。

課題

周囲からの視線が気になってしまう特性に配慮して、組織的な対応を、教員・生徒・保護者で検討する。

不登校生徒に対する組織的対応について

不登校生徒の状況

　対象生徒は、小学校高学年から教室に入ることができなくなり、中学校入学後も不登校状態が継続していた。
　集団生活に苦手意識が強く、教室で過ごすことが難しい。また。学習の遅れに強い不安を感じている。

具体的な取組

○校内別室の環境整備
　パーティションで区切られたスペースで他者の視線等を気にすることなく、安心して過ごすことができるようにしている。

○支援会議
　毎月開催される不登校対策委員会で生徒の状況を共有し、支援の目標や方向性、具体的な対応について検討している。
　会議の中で、当該生徒に対して校内別室の利用を促すという方針を立て、学年や学級担任が生徒に働き掛けた。

○学習支援
　一人１台端末を用いて、ＡＩ型学習ドリルなどにアクセスし、生徒が自分のペースで学習を進めている。
　校内別室を訪れる教員が個別に学習指導を行い、安心して学べる環境を整備した。

○外部機関との連携
　当該生徒に対して重層的に対応するために関係機関と密に連携を図っている。
　ＳＳＷ、校内別室指導支援員、ＳＣが支援会議に参加し、指導・助言を行ったり、家庭訪問などを行ったりしている。

成果

　中学入学後、校内別室を利用するようになってから登校日数が増えていった。
　学習にも意欲的に取り組むようになり、校内別室で定期考査も受検できるようになった。

課題

　卒業後の進路実現や社会的自立に向けたキャリア教育の充実や本人の状況を踏まえた集団での活動のために適応支援を図っていく。